

統合的湖沼流域管理の普及活動(湖沼流域ガバナンスプロジェクト)

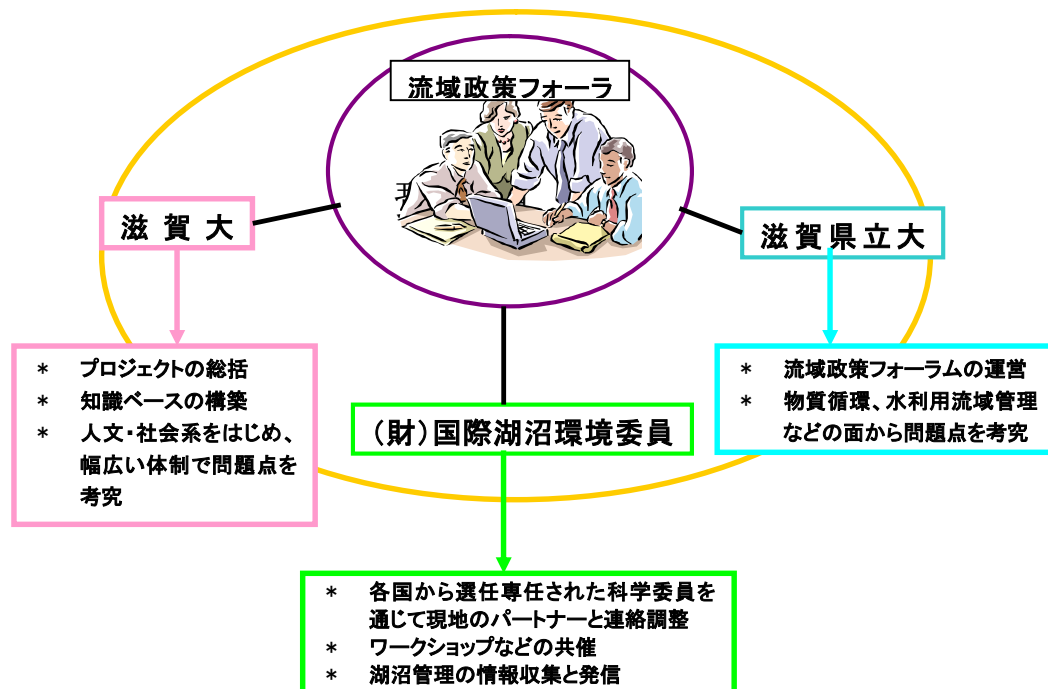
2009年2月4日

統合的湖沼流域管理（ILBM）は、湖沼のもつ3つの特徴（1. 長い滞留時間、2. 流域の自然や人間活動の統合性、3. 複雑な湖内の相互作用）を念頭におきながら、湖沼とその流域を持続的に管理・保全していくための枠組みを提供する。この概念は、ILECが執行機関となり2003-2005年にかけて実施された世界銀行/GEFプロジェクト”Towards a Lake Basin Management Initiative”の成果として生まれたもので、2005年以来、さまざまな国、地域、機関において、湖沼などの静水システムを含む流域を持続的に管理するために有効であることが実証されつつある。

ILBMにおいては、従来のように政府が中心的な役割を果たして問題を解決していくのではなく、パートナーシップやネットワークなど流域内の公式・非公式の社会的仕組みを生かし、緩やかな幅広い取組みを推進していく“流域ガバナンス”の実践が求められる。

この“流域ガバナンス”という考え方は、まだ比較的新しい概念であり、有効に普及・推進していく取り組みの一環として、2007年7月に国際湖沼環境委員会（ILEC）、滋賀県立大学と共に設立した「流域政策研究フォーラム」をプラットフォームとする情報収集と多面的な検討を行っている。「持続可能な資源利用を可能とする湖沼流域管理のためのガバナンス向上に関する研究」を文部科学省に申請し、認定された。この研究プロジェクト（以下“流域ガバナンスプロジェクト”と呼ぶ）は2008年よりの3年にわたるプロジェクトで、ILECは両大学と協力し、ILBMを広く国内外に向けて発信し、その普及を図る予定である。

湖沼流域ガバナンスプロジェクトの推進概念図



プロジェクトの推進に当たり、三機関はそれぞれ“資源”を出し合ってプロジェクトを推進するが、その中でILECは、既に保持する必要な情報を提供するとともに、世界各地の科学委員を通じて現地のパートナーとの連携を図り、ILBMを普及するためのワークショップを共催する。また世界各地の湖沼管理の情報を収集し、それらを世界に発信する窓口となる。

このプロジェクトのもう1つの目的は、流域ガバナンスの課題を集約するフォーマット(Lake Brief と呼ぶ)に基づいて幅広く情報を採集することにより、ILBMの概念をさらに充実させ、その適用可能性の拡大を図ることにある。そのような視点から、プロジェクトの対象とする湖沼については、地域、特徴、直面している問題などを幅広く勘案して選定することにした。2008年度は、以下の湖沼を中心に現地調査および関係機関との協議を行った。

日本 琵琶湖、霞ヶ浦・手賀沼・印旛沼、宍道湖・中海、諏訪湖

日本以外
 アフリカ地域: ヴィクトリア湖(ケニア他)
 南アジア・インド: フセインサガル湖、ウジャニ貯水池(以上南インド)、フェワ湖、ルパ湖他(ネパール)
 東アジア: ラグナ湖他(フィリピン)、チニ湖・ブキットメラ湖(マレーシア)
 ヨーロッパ: ラドカ湖、ペイプシ・チュドゥースカ湖、イルメン湖(西北ロシア)
 中南米: チャパラ湖(メキシコ)

また、以下の地域では既に開発中の研修モジュールを使ってILBMワークショップを開催した。

対象地域	実施場所	実施年月日	共催機関
南アジア・インド	ハイデラバード(インド)	平成20年8月28-29日	インド水生植物学会
中南米	チャパラ湖(メキシコ)	平成20年11月17-22日	Corazon de la Tierra、ハリスコ州観光局、ハリスコ州水委員会、ITESO 大学

プロジェクトでは、これらの活動の成果を発表するとともに、平成21年度の進め方を討議するための報告会を平成21年3月初めに予定している。